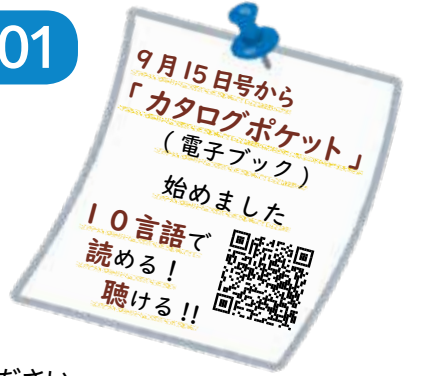


NO.501



UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

人権さんだ

● 親の気持ち押し付けず
寄り添いたい
子の本音

ゆりのき台(前年度)
おかもと しゆか
岡本 珠香 さん

令和元年度
三田市人権標語優秀賞作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。
新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課
(559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

お互いを知り合い、支え合える社会 ～ 地域でつながる ～

現代社会の中で起こるさまざまな人権問題の背景の一つに、人間関係の希薄さが指摘されています。人と人とのつながりは、地域で暮らす人々にとって大切ですが、今月号は「みんなが安心して暮らせるまち」にしていこうために、退職後、地域を歩き、声かけ・挨拶活動を実践されている三田小学校区の寺本宏さんにお話を聞きました。

障害のある人もない人も

以前、人権の会で地域づくりについて自分の考えを伝えようとしていた人に出会いました。まちづくりに参加したいと思いついて自分の考えを積極的に話そうとしていたが、その人には障害があり、話す言葉は聞き取りにくく、最初のうちは理解するのも難しく感じました。しかし、何回か出会う中で少しずつ言葉も分かるようになりましただ。「しっかりと考えた人だなあ」と感じ、お互いに少しずつ分かり合えるようになっていきました。



▲寺本 宏さん

その後、地域と一緒に活動する機会もあり、「ご飯作ったけど一緒に食べようか?」など、昔からの知り合いのように気さくなって話していました。

子どもたちの育ちを願って

朝の見守り活動は、「寺本じいじ!おはよう」と挨拶してくれる子に、「昨日はサッカー行っただか?」そんな声かけから始まります。子どもたちの元気な姿に、こちらまで元気にさせられます。そんな中、地域の小学校に外国から子どもが転校してきました。子どもたちが、「この子はまだ日本語分からへんで」と教えてくれました。私は、「毎日、どんな思いで過ごしているのかなあ」と、声のかけ方に悩みました。ある朝、登校中のその子に、思い切って「タッチ!」と声をかけました。すると、すぐにハイタッチで応えてくれました。それがきっかけとなり、お互いに知り合うことができました。今では、日本語も上手になり「おはよう!」と元気に挨拶してくれました。言葉が通じなくてもコミュニケーションが取れることが分かりました。

ある日、公園でお菓子の取り合いをしている子どもたちに出会いました。子どもたちは、どの子もそれぞれに個性的です。小さなうちは、自分の気持ちをうまく言葉で伝えることができません。すぐに相手とぶつかってしまふ子もいます。そういう時には、子どもたちの会話の仲立ちをします。「公園にお菓子をもって来るから喧嘩になるねんで」と声をかけると、ふくれた顔の子も、にっこり笑ってくれました。

みんなで食べる

地域で大切なことは、大人が子どもたちと知り合い、一人一人の子どもの個性を理解することだと思っています。地域の大人が子どもたちの育ちを支えているのだと思います。

三田地区では子ども食堂を開催しています。家では、あまりごはんを食べない子も、「ここではよく食べることが出来る」と子どもと一緒に来たお母さんから聞きました。最近の子は、夕食を一人でとることが多いと言われていますが、ここでは、みんなで楽しくおしゃべりしながら食べることが出来ます。



▲子どもたちのお餅つきの様子



▲朝の見守り活動の様子

インタビューを終えて

お餅つきのイベントの時は、私も家から準備してきて一緒に楽しみます。子どもたちは打ち解けるといふ話をしてくれず。とても楽しい時間です。「箸はこう持つんやで」と教えたりもします。子どもたちとの触れ合いはとても新鮮で活力をもらいます。

ここは、子どもも大人も互いに知り合い、楽しく食事がとれる大切な場所となっています。

私たちが暮らす地域には、障害のある人や外国にルーツのある人、子どもや高齢者などさまざまな人が生活しています。地域の中ではお互いに知り合い支え合えるために、さまざまな取り組みも進められています。中でも、日々の挨拶を交わすことは、お互いに相手を認め合う出発点になります。そこからお互いの立場を理解し、関係性が広がっていくことで、支え合う地域につながるのではないでしょうか。

編集後記

三田市では、「共生社会推進プログラム」を策定し、障害のある人もない人も共に安心して暮らせるまちづくりを進めています。さまざまな人が暮らす地域の中で、人との出会いを大切にし、互いに支え合える活動をしている寺本さんの実践は、このプログラムに通じるものだと感じました。